

# 新春初出会



今冬一番の厳しい寒気団が列島を覆い、最高気温7℃という天候にもかかわらず、過去最多の63名(会員58名+ビジター5名)が参加して、2013年の活動がスタートした。午前11時すぎまでは、第5地区の笹藪の刈り払い機による除去作業グループと餅つき&七草粥準備グループに分かれて作業を実施した。

春の七草の内、すずな以外の6種類全てならやまで採取。来年は、すずなの植え付けをして完全に「ならやま産」(地産地消)でと思っている。

正月の一大イベントといえば「餅つき」がある。餅つきの由来は、元旦に家を訪れる「年神」を祀り、新しい年の幸福を祈るという意味を持っているそうだ。10時半ごろから4升の餅米を蒸しかけたところ、熱効率の良さで予定の時間よりも少し早めに蒸し上がり、搗き手と介添役の方々の手つきの良さに感心しつつ、一搗きごとに「よいしょ」のかけ声がかかる。搗き手役が交代しながら、みるみるうちにきれいなお餅が搗き上がる。側で待機していた6~7人でお餅を丸めてきな粉を塗すと、見るからに風味豊かで美味しいきな粉餅が大量にできあがっていった。

一方、七草粥は、春の七草に1升2合のお米を入れて、大鍋満杯に炊きあがった。

正午すぎに藤田会長の挨拶に続いて、会員の皆さんやご家族の方々の無病息災を祈願し、阿部顧問のご発声による乾杯でスタート。用意した「きな粉餅」と「七草粥」、西谷さんお手製の「巻き寿司」、池田さんが丹精込められた「甘酒」など全員で賞味し見事に完食。約1時間余りで中締めとした。年々初出会も充実したものになっていく。販売部長の吉村さつきさんの発案で、全員に福袋(ならやま産各種大根などの詰め合わせ)も用意でき、お持ち帰りいただくことになった。

さて次回は、子どもさんやお孫さんたちを交えて、ご家族で餅つきに参加してもらえるようなこととも思ったりしている。(鈴木 記)

1月10日



## 「里山の保全・整備活動を行う団体の研究」

京都大学工学部地球工学科景観設計学研究室4回生の湯川竜馬さんが、当会の活動のことを側聞され、現地視察を兼ねて来訪された。

## 京大生来訪!



研究調査の主な項目は

- ①活動のきっかけ
- ②リーダーや協力者の関係構造 について
- ③活動内容の広がり方と担い手となる方
- ④人のネットワークの広がり方とその具体的な人数の変移
- ⑤各作業に必要な動員人数と作業頻度、時期
- ⑥補助金制度の活用や行政の支援 等でした。

今日に至るまでの経緯等を、阿部顧問と古川前プロジェクトリーダーから説明をされた。

湯川さんは、「ボランティア団体として、ここまで規模が大きく、成長している団体はなかなかないと思います。特に印象的だったのが、ならやまのフィールドでの活動が、周辺地域の皆さんや、小学校・牧場・造園業の方などを巻き込み大きくなっていくところです。ボランティア団体の、まさに理想的な活動の展開だと感じました。大変よい勉強になりました。ありがとうございました。」とのコメントを寄せられた。一昨年来、国土緑化推進機構会長賞・環境大臣賞・奈良県知事表彰と立て続けに受賞できました。社会的に認知されつつあることでもあります。それは、

一段落ではなく「さらに充実した活動を期待している」という激励であったのでしょうか。奈良県の自然を『より良い状態で次の世代に引き継ぐ』というコンセプトを持ち、更なる努力をしていかなければと思っています。

(阿部 記)